静岡大学地域連携協働センター

活動報告書

平成22年度

目　次

■平成22年度を振り返って ―― 2
地域連携協働センター長　柳澤　正

■地域連携コーディネーター活動報告 ―― 3
□地域から信頼される静岡大学をめざして
地域連携協働センター特任教授　土居　英二
□今年度の活動
地域連携協働センター特任教授　満井　義政

■関連各組織の活動報告 ―― 5
□地域連携協働センター
研究協力・情報チーム主任　森本　真弘
□生涯学習教育研究センター
生涯学習教育研究センター長　阿部　耕也
□キャンパスミュージアム
キャンパスミュージアム運営委員会委員長　和田　秀樹
□地域社会文化研究ネットワークセンター
地域社会文化研究ネットワークセンター長　野方　宏
□防災総合センター
防災総合センター長　増田　俊明
□高柳記念未来技術創造館
電子工学研究所准教授　青木　徹
□情報学部地域連携推進室
地域連携推進室長　岡田　安功
□イノベーション共同研究センター
イノベーション共同研究センター長　木村　雅和

平成 22 年度を振り返って

地域連携協働センター長　柳澤　正

静岡大学地域連携協働センターは、平成20年4月に設置され、丸3年が経過いたしました。この間、当センターは、地域の皆様と本学との間の連携活動を支援・コーディネートする総合窓口として活動してまいりました。

本学では、教育･研究の成果をベースに、学内の様々な組織や団体が地域社会の皆様方と多様な連携活動を展開しています。例えば、地域の課題解決、人材育成、公開講座、研修会、高大連携、展示公開、国際交流、ネットワーク化などに係わる活動に、各学部や大学院、研究所、共同施設、プロジェクトチーム、学生や教職員のグループなどが携わっています。

毎年、日本経済新聞社産業地域研究所が大学が研究成果や人材を地域に役立てる「地域貢献度」についての調査を行っており、様々な観点から評価した結果を地域情報専門誌「日経グローカル」に発表しています。平成21年度の各大学の活動状況について、全国754の大学を対象に調査が行われ（回答は525校）、その結果が「日経グローカル」（No.160，平成22年11月15日発行）に掲載されました（http://www.nikkei.co.jp/rim/glweb/backno/no160.html）。本学は、総合ランキングでは全国18位（国立大学法人中では8位）、組織・制度項目ランキングでは全国2位、学生数と教員数を考慮しない絶対数ランキングでは全国6位でした。本学の総合ランキングは、前々回54位、前回31位、そして今回18位と着実に上昇してきており、年々、地域連携活動が充実してきていることの証と言えます。ランキングに囚われるものではありませんが、コンスタントに上位をキープすることができれば、活発な地域連携活動が継続的に実施されているものと判断できるでしょう。

今の時代、大学の地域連携活動を正しく把握し、学内外に広く広報していくことが求められています。学外の皆様には、本学の地域連携の取り組みを知っていただくことにより、本学と一緒になって同様のあるいは新たな連携活動に取り組んでみようという機運が高まっていくでしょう。一方、学内の学生・教職員の皆様には、お互いの活動を知ることによって刺激を受け、より精力的に地域連携に取り組むという形で活動が活発になっていきます。結果として、大学全体の地域連携活動が活性化しその結果として大学の評価も上がっていくことが期待できます。

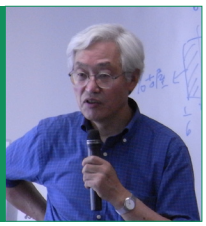
本報告書は、平成22年度における当センターの活動状況、及び本学で地域連携活動に携わっている主な組織や団体の活動状況をまとめたものです。お目通しいただき、本学の地域連携活動の概要をご理解いただくとともに、興味のある地域連携活動に加わったり新たな地域連携活動を始めたりする際の参考にしていただければ幸いです。

平成23年1月26日開催の公開シンポジウムでのあいさつ

平成23年3月5日中日新聞との連携講座の閉講式の様子

地域から信頼される静岡大学をめざして

地域連携協働センター特任教授　土居　英二



＜地域連携協働センターの運営参画＞

月1回のペースで開催される地域連携協働センターの運営委員会に委員として参加し、センターの運営に参加しました。また、平成22年7月～ 12月に開催された社会連携検討ワーキングに参加し、静岡大学の社会連携のあり方について議論しました。

＜学内事業の支援＞

6月5日（土）・6日（日）に静岡県コンベンションアーツセンター"グランシップ"で開催された「第3回静大フェスタ」の広報を支援し、ブース出展に協力しました。

また、11月27日（土）・28日（日）の産業フェアしずおか2010（ツインメッセ静岡）では「しずおかの企業・産業の海外展開、海外誘客を支援する留学生の会」と題しブース出展を行いました。

＜公開講座等講師＞

7月10日（土）・17日（土）・24日（土）に静岡市産学交流センター（B-nest）で開催された、地域連携協働センター主催の公開講座「仕事に活かそうエクセル統計分析の手法」の講師を担当しました。また、学外においても、財団法人静岡経済研究所「研究員研修講座」や静岡県中小企業家同友会「事務局職員研修」の講師も担当しました。

＜大学間連携事業への支援＞

平成20年度から始まった、文部科学省「戦略的大学連携事業（静岡大学・静岡県立大学・静岡産業大学の国公立3大学による人材育成プログラム開発）において、定例委員会への参加やコンソーシアムの立ち上げなど支援を行いました。

＜学外団体・組織との連携・支援＞

学外諸団体との連携業務として今年度特に注力したのは、静岡県からの委託事業「富士山静岡空港地域経済波及効果分析業務」に事業代表者として従事したことです。人文学部の教員5人と私の計6人で本分析業務を行い、富士山静岡空港がもたらす経済波及効果を明らかにしました。

公開講座の様子

その他に連携・支援した業務は以下となります。

■静岡県大学室、国際経済振興会SIBA共催「留学生対象企業就職説明」協力
■静岡県厚生部精神福祉室「自殺防止予防策の立案に関する自殺統計データの解析」支援
■静岡県交通政策課「富士山静岡空港から清水港直行バス」案内中国語版作成協力
■静岡市産学交流センター「平成22年度地域課題に係わる産学共同研究」公募委託事業の支援
■県中小企業団体中央会「農商工連携事業」支援
■静岡市ホテル旅館協同組合「香港プロサッカーチーム来客接遇」通訳協力
■静岡市内ホテル「ＨＰ多言語化」協力
■航空会社「搭乗率向上、適正運賃、学生対象キャンペーン」協議
■静岡市内ホテル「韓国出身フロントスタッフ斡旋」
■静岡市内旅行会社「本学教員同行の教育旅行企画」

今年度の活動

地域連携協働センター特任教授　満井　義政

＜大学と地域との連携について＞

■学生の就職活動

卒業予定者の就職環境が厳しくなる中、その背景と原因、対応について（財）静岡経済研究所と協議検討し、静岡県内事業所と若年就労者の実態調査とその分析を行い、安定志向・大手志向が強まる学生の企業選択のミスマッチ解消の手掛かりを探った。23年5月に調査結果を発表する予定である。

このほか、日経新聞、静岡新聞などのマスコミ、県内大学、県教育委員会、商工会議所などと意見交換を行った。

■ビジネスコンテストなどへの参加促進

企業活動や就労理解のため、静岡産業振興協会や浜松地域テクノポリス推進機構などが主催するビジネスコンテストに学生の参加を呼びかけた。12月の浜松、2月の静岡でのコンテストに静大生は各々１名が入賞した。大学の総力を挙げて参加する学校に比べ、個人参加の申込者数が際立って少なかった。

■静岡大学留学生奨学金制度の新設

新興国出身の留学生への奨学支援と人的交流を目的とした制度を地元銀行と協議した。銀行の協力を得て23年9月より開始する予定である。

■行政機関などとの情報交換

しずおか産業創造機構、県産業部などと意見交換を行い、雇用対策審議会、県教科書選定審議会などへ参加した。

■アッパレ会の活動

「市民と静大・共同企画講座をすすめる会」（アッパレ会）の会員約40名による大学応援組織の運営に参加した。現状の人文学部言語文化学科との連携を拡大していく方向を模索していく。

人文学部「情報意匠論」のプロジェクトの様子

シンポジウムの様子

＜大学内での活動について＞

■シンポジウムに参加

1月26日に「地域と大学を結ぶ～教育・研究・地域連携の融合をめざして～」が、静岡と浜松のキャンパスを結んで開催され、パネルディスカッションのコーディネーターとして参加した。昨年の60周年記念の第1回に次ぐ2回目であったが、多くの参加学生からは周知されていれば参加したい、関心があるなどの積極的感想や意見があり今後への期待が膨らんだ。

■農学部の集落支援ミーティングに参加

静岡市梅ヶ島地区と大学の連携活動にその実態把握と課題研究のため参加した。時間を十分に掛け相互理解を深めるために、学生や地域の関係者が車座になって話し合う姿勢に地域連携の原点を見ることができた。今後は他大学をも含めた広範な参加者が期待できそうだ。

■サポーターズクラブの提案

地域連携協働センターの機能強化のために、学外の支援組織を提案した。具体的内容は地域連携協働センターの組織確定後に決定する予定である。

地域連携協働センター活動報告

研究協力・情報チーム主任　森本　真弘

＜展示会への出展＞

6月5日（土）・6日（日）の静大フェスタ（グランシップ）の社会連携ブース、10月30日（土）-11月3日（水）の国際ユニヴァーサルデザイン会議2010（アクトシティ浜松）、11月27日（土）-11月28日（日）の産業フェアしずおか2010（ツインメッセ静岡）へ出展を行った。

＜公開講座の開催＞

7月10日（土）・17日（土）・24日（土）に、本センターの土居英二コーディネーター（特任教授）による公開講座「仕事に活かそうエクセル統計分析の手法」を静岡市産学交流センター（B-nest）で行い、3日間延べ100人が受講した。

また、11月13日（土）・12月11日（土）・平成23年1月8日（土）・2月12日（土）・3月5日（土）の5回に渡り、中日新聞との連携講座「これからの〈まち〉の姿を考える～工学＆情報学の視点から～」を静岡大学浜松キャンパス及び浜松駅ビル（MAY ONE）で行い、延べ235人が受講した（URL:http://www.lc.shizuoka.ac.jp/kouza00046.html）。

＜シンポジウムの開催＞

平成23年1月26日（水）に、本センター主催公開シンポジウム「地域と大学を結ぶ～教育・研究・地域連携の融合をめざして～」を静岡大学で開催（静岡・浜松両キャンパスをTV会議で接続）し、学内外187人が参加した。本内容は報告書にまとめてウェブサイト（URL:http://www.crc.shizuoka.ac.jp/publication/symposium2010.pdf）に掲載した。

＜委託事業の受託＞

本センターの土居英二コーディネーター（特任教授）及び人文学部教員5人の研究グループが、静岡県より「富士山静岡空港地域経済波及効果分析業務」を受託し、8月11日（水）から3月31日（木）の間、調査・分析等の業務を行った。

＜ニュースレター発行＞

静岡大学に展開される大小さまざまな地域連携活動を紹介するニュースレター「地域とともに」を平成22年度から発行することとし、今年度は、9月、12月の2回発行し、ウェブサイト（URL:http://www.crc.shizuoka.ac.jp/news_letter.html）に掲載した。

＜センター広報＞

サイエンスカフェ in静岡（10月14日（木））、浜松RAIN房講演会・交流会（11月23日（火・祝））、静大飛ぶ教室in富士（12月1日（水））で本センターのPR活動を行った。

＜ウェブサイトの運営＞

本センターのウェブサイトで68件の学内外のイベント情報等を掲載した。

また、2月から3月にかけてウェブサイトの改定作業を行い、リニュアルを行った。

旧URL:http://www.shizuoka.ac.jp/chiiki/

新URL:http://www.crc.shizuoka.ac.jp/

本センターウェブサイトのトップページ

生涯学習教育研究センター活動報告

生涯学習教育研究センター長　阿部　耕也

＜静岡大学公開講座の実施＞

今年度の静岡大学公開講座は、2010年5月から2011年3月にかけ、静岡・浜松の両キャンパスをはじめ、藤枝の附属施設、静岡、浜松、沼津の各生涯学習施設など様々な会場で実施された。多岐にわたるテーマで全15講座開講し、受講者数は371名であった。今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたい。

＜市民開放授業の実施＞

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目を、一般市民の方に開放するものである。単位の認定はないが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できる。正規学生と一緒に受講するので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができる。2010年度の開講科目数、受講者数は、次の通り。開放科目数493、受講者数217人、のべ受講科目数378。

＜創立60周年記念関連事業の実施＞

静岡大学は、2009年度に創立60周年を迎え、その記念事業として数々の催しを行った。生涯学習教育研究センターでは、「静岡大学・読売新聞連続市民講座」、「静岡大学･中日新聞連携講座」、「静岡大学･コープしずおか創立60周年記念連携公開講座」を主催・共催し、これらの講座は2010年度も継続して実施した。

■静岡大学・読売新聞連続市民講座「未来につなぐ、食と健康」

日時：5月8日～ 12月4日　14:00 ～ 16:00（全8回）
会場：静岡市産学交流センター（B-nest）
主催：静岡大学生涯学習教育研究センター、読売新聞東京本社静岡支局
参加者：791人

■静岡大学・コープしずおか連携公開講座「自分らしく生きる～豊かなライフスタイルに向けて～」

日時：7月3日～ 3月12日　10:00 ～ 12:00（全8回）

読売新聞連続市民講座（第2回）の様子

会場：静岡市産学交流センター（B-nest）ほか
主催：静岡大学生涯学習教育研究センター、コープしずおか
参加者：211人

■静岡大学開学60周年記念公開シンポジウムII「静岡大学の足跡と未来への足音＜それはいかに実現されたのか？＞」

日程：4月24日～ 12月18日　13:30 ～ 16:30（第2回～第6回）
会場：静岡市産学交流センター（B-nest）
参加者：235人

■静岡大学・中日新聞連携講座「これからの<まち>の姿を考える～工学＆情報学の視点から」

日時：11月13日～3月5日　14:00～16:00(全5回)
会場：静岡大学浜松キャンパス、TKP浜松カンファレンスステーション会議室
主催：静岡大学地域連携協働センター、中日新聞東海本社
企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター
参加者：235人

＜公開シンポジウム「学習ネットワークと生涯学習13」＞

センター開設時からの継続事業。第13回の今回は、情報ネットワークを活用した学習―交流支援システム、市民対象の大学教育プログラムにおけるeラーニ

ングシステムなどを取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討した。

日時：2 月1 日（火）　14:25 ～ 15:55

会場：静岡大学共通教育A棟301教室

・プログラム：

1）主体的に学ぶ子どもの育成を目指した、「子どもの『学びの場』充実事業」について～「ふじのくにゆうゆうnet」と「ゆうゆうポイントラリー」の取組を例に～

工藤陽明（静岡県総合教育センター）

2）社会人学び直しニーズ対応教育プログラムと大学eラーニングシステム

徳山真治（農学部准教授）

コーディネーター：菅野文彦（静岡大学教育学部教授）

参加者数：78人

＜博物館フォーラム「博物館活動と学芸員資格～現場の声を聞く～」＞

博物館の業務は、主に学芸員資格を有する専門職員によって担われている。ところが、資格を取得しても実際に博物館に就職できる割合はごくわずかで、学芸員資格を生かせるような仕事に就くのはきわめて厳しい状況にある。

一方、専門職としての学芸員だけではなく、一般事務として採用され博物館に配属されている場合や、学校の教員が指導主事のような形で博物館に派遣されている場合など、現実には、さまざまな形で学芸員資格が生かされ、博物館を支えている。

今回は、静岡大学で学芸員資格を取得し、さまざまな形で博物館と関わりを持ちながら仕事をしている人々を招いて、どのような経緯で就職し、現在どのような仕事をしているのか等、現場からの声を交えながら、多様な博物館との関わり方を探った。

日時：2月3日（木）　12:45 ～ 14:15

会場：静岡大学共通教育A棟301教室

・プログラム：

1）これまでのキャリアと博物館との関わりについて

報告：織田一平（丸岡町文化振興事業団）

2）大学で学んだことを、美術館でどう生かすか

報告：安岡真理（静岡市美術館）

コーディネーター：金子淳（静岡大学生涯学習教育研究センター准教授）

参加者数：119人

主催：静岡大学生涯学習教育研究センター、静岡大学大学教育センター

※本フォーラムは、大学生の就業力育成支援事業の一環として実施した。

＜生涯学習指導者研修事業「公民館の現状と可能性を考える」＞

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施するものである。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育･生涯学習の場として、これまで以上に地域の住民･機関・団体との連携・協働が求められている。地域の学びを広げる様々な取り組み事例に学び、また公民館が直面している課題と地域からの期待を探りながら、公民館の現状と可能性を検討した。

日時：2月9日（水）　10:30 ～ 16:00

会場：島田市立金谷公民館

主催：静岡県公民館連絡協議会、静岡大学生涯学習教育研究センター

参加者数：101人

＜公開セミナー「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」＞

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学ぶって楽しい！」と題する公開セミナーを実施した。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができる。大学のキャンパスを学びの場にしようという趣旨の企画である。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただいた。

日程：6月20日､10月17日　9:10 ～ 12:00（全2回）

会場：静岡大学教育学部B棟

企画協力：静岡県知的障害者就労研究会

参加者：169人

＜出前講座（しずだい飛ぶ教室）の実施＞

■しずだい飛ぶ教室in吉田町「三国志の世界～戦争と平和～」

講師：重近啓樹人文学部教授

日時：8月26日　17:30 ～ 21:00

サイエンスカフェ in富士の様子

全国生涯学習系センター研究協議会の様子

会場：吉田町中央公民館
参加者：約40人

■サイエンスカフェ in富士「ケイ素の有機化学～生活に役立つシリコーンの科学～」
講師：坂本健吉理学部教授
日時：12月1日　17:00～20:30
会場：富士市ラクロス吉原「ウィンストンカフェ」
参加者：約40人

＜企画協力事業＞

■静岡市・大学連携事業「市民大学リレー講座」
Part1「静岡市を学ぶ」
日時：8月7日　～ 9月25日　13:30 ～ 15:00（全5回）
Part2「お茶に注目！」
日時：10月9日～11月20日　13:30～15:00（全3回）
会場：静岡市アイセル21
主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉学園大学、静岡市
企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

■吉田町特別公開講座「静岡と近代化」
日時：11月4日～12月9日　19:30～21:00(全6回)
会場：吉田町中央公民館
主催：吉田町
企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

＜全国生涯学習系センター研究協議会への参加＞

10月21-22日に和歌山大学にて開催された生涯学習系センター研究協議会に参加した。これは、国立大学法人が設置する生涯学習系センターの研究協議組織で、今年度は、専任教員（阿部・金子）に加え、副センター長の小西潤子教育学部准教授、研究協力・情報チームの片瀬綾子主査が参加した。

＜刊行物＞

■センター研究紀要「生涯学習教育研究」第13号
■広報誌「地域と大学」21号、22号
■公開セミナー報告集「学ぶって楽しい！大学で学ぼう」通巻第7号
■清沢塾棚田報告書「自然農の大きな庭に遊んでの10年」

＜ウェブサイトのリニューアル＞

2010年3月24日、生涯学習教育研究センターのウェブサイトが新しくなり、以下のようにURLが変わった。
（旧）http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/
（新）http://www.lc.shizuoka.ac.jp/
ニュースレター「地域と大学」のバックナンバーや、当センターで発行した報告書がダウンロードできるようになっている。問い合わせのフォームもあり、大学開放事業・講座の企画・講師紹介に関することなど気軽に問い合わせいただきたい。

キャンパスミュージアム活動報告

キャンパスミュージアム運営委員会委員長　和田　秀樹

＜展示室の公開＞

通常授業期間中の火曜日と木曜日に3時間（12:00～15:00）の一般公開を行った。一般公開日は、54日間であった。また、一般公開日とは別に、春のフェスティバル期間中（6月5日・6日）および企画展開催中（11月15日～21日）に特別公開（10:00～16:00）を行った。このほか、公開日以外の来訪者に対しては、生涯学習教育研究センターの協力を得て随時公開を行った。通常開館中の来館者数は392人であった。

＜企画展「赤石山地（南アルプス）の自然遺産」＞

キャンパスミュージアム内の実習室の一部を使って開催した。会期および期間中の来場者数は下記のとおり。

会期：11月15日（月）～21日（日）10:00～16:00（7日間）

来場者数：355人

なお、会期中の催しとして、11月20日（土）、11月21日（日）に展示会場にてミュージアムトーク「赤石山地（南アルプス）ができるまで」を開催した。

＜企画展以外の行事＞

第3回静大フェスタに出展し、ミュージアム設立の経緯、常設展示内容の紹介とともに、2010年度企画展の予告と静岡キャンパス生物調査の活動紹介を行った。会期および期間中の来場者数は下記のとおり。

会期：6月5日（土）・6日（日）10:00～17:00（2日間）

来場者数：1,226人

＜大学博物館等協議会＞

6月24日（木）・25日（金）、東北大学において第13回大学博物館等協議会総会（第5回博物科学会）が開催された。同総会には、和田秀樹・キャンパスミュージアム運営委員長（理学部教授）および篠原和大・キャンパスミュージアムWG長（人文学部准教授）が出席した。博物科学会では、「静岡大学－国立科学博物館コラボミュージアム　富士山展とコラボミュージアムの今後の展望」および「静岡キャンパス生物調査　静岡大学静岡キャンパス生物調査特別企画事業のあらましと成果」と題した2件のポスター発表を行った。

＜学術資料の登録＞

以下の大分類記号を新たに登録した。

BS　Biological Survey

以下の標本を新たに登録した。

■Paramerina okigenga（Sasa）

コシアキヒメユスリカ

SUM-IC-T0308 T0341, T0391 T0396（標本40点）

21個体の雄成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、11個体の雌成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、2個体の蛹とその幼虫脱皮殻、6個体の幼虫

■Paramerina togavicea（Sasa et Okazawa）

コシアキヒメユスリカ属の一種（和名未定）

SUM-IC-T0342 T0373, T0389, T0390（標本34点）

16個体の雄成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、7個体の雌成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、幼虫11個体

■Paramerina yunouresia（Sasa）

コシアキヒメユスリカ属の一種（和名未定）

SUM-IC-T0374T0388（標本15点）

10個体の雄成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、4個体の雌成虫とその蛹・幼虫の脱皮殻、幼虫1個体

＜実習室の利用＞

授業、実験、生物調査、ガムラン練習等、8件（計200名超）の利用申し込みがあった。

地域社会文化研究ネットワークセンター活動報告

地域社会文化研究ネットワークセンター長　野方　宏

＜定期刊行物＞

2011年3月に本センターの定期刊行物3冊を公刊した。学術誌「地域研究」第2号は人文学部の学部重点課題として競争的資金配分を受けた4研究プロジェクト（「地域別経済指標に基づく静岡SDモデルの開発」、「温泉観光都市・伊豆の再生」、「ヒアリング調査に基づく伊豆地域観光業の振興と地域の活性化」、「大学アーカイブズ構築に向けた初歩的作業（第2期）」）および龍谷大学社会科学研究所との共同研究（「静岡県西部・製造業の地域間取引構造」）の研究成果を掲載したものである。

地域に向けた人文学部の情報発信誌「みんなの大学」は「カラー版」と「FW特集（白黒版）」の2冊からなり、「カラー版」は写真も交えた人文学部の地域連携活動を紹介したものであり、今号が第13号となる。「FW（フィールドワーク）特集」は人文学部4学科におけるフィールドワーク教育の内容をまとめたものである。

情報発信誌「みんなの大学」

小島龍津寺での講演会の様子

＜講演会・見学会＞

地元のボランティアグループと連携して、今年度は2件の講演会・見学会を実施した。

龍津寺、小島町文化財を守る会、鞠水書屋と人文学部共催で2010年10月17日に天理大学教授岡田昌彦氏を講師に、「忘れられた仏教天文学　小島龍津寺所蔵須弥山儀の謎」の講演を静岡市清水区龍津寺で行った。

静岡ハリストス正教会、鞠水書屋と人文学部共催で2010年10月23日に小田原ハリストス正教会司祭田中仁一氏、絵本作家吉田稔美氏、東海大学准教授金沢百枝氏を講師に、「静岡ハリストス正教会のイコンと山下りん」の講演および静岡ハリストス正教会の聖堂見学会を行った。

＜事業相談・人材派遣など＞

2010年9月に熱海市の美術館より熱海市の観光動向と観光客（入場客）の今後の動向の相談を受け、人文学部の関連教員を紹介・対応した。

2010年8月に法務局人権擁護課より研究会講師の派遣依頼があり、人文学部の関連教員を紹介し派遣依頼に応えた。

2010年9月に静岡市内の旅行会社より海外旅行企画の相談及び人材派遣の依頼があり、人文学部の関連教員を紹介・対応した。

防災総合総合センター活動報告

防災総合センター長　増田　俊明

静岡県会議員の視察の様子

キックオフシンポジウムの様子

＜ふじのくに防災フェロー養成講座＞

文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として、静岡県と連携し、人材育成プログラム「ふじのくに防災フェロー養成講座」をスタートしました。

■関連シンポジウム・研究会

□防災総合センター研究会（9月29日-30日）

□防災フェロー研究会（2011年1月21日、3月10日）

□プレセミナー（2011年2月19日）

□シンポジウム（2011年3月7日）

＜静岡県会議員が視察に来てセンターの概要を説明しました（7月30日）＞

＜講演会・シンポジウムなど＞

■しずおか防災コンソーシアム関係

□土曜セミナー（4月17日、5月15日、7月10日）

□研 修 会（11月18日、2011年1月15日、2月25日）

□講習会（2011年2月25日）

■調査報告会（7月12日、7月13日、9月1日、9月30日）

■防災講演会（8月6日、8月17日、8月19日）

■研修会（12月6日）

＜発行書籍＞

■防災総合センター年報1号（2010年6月）

■地震からあなたと家族を守る命のパスポート＜解説版＞（2010年9月）

■支援者のための災害後のこころのケアハンドブック（2010年12月）

＜現地調査＞

■地震・地盤・地質

□伊 豆（2月19日、4月17日-19日、4月29日-5月1日、5月5日-5月6日、5月16日-17日、5月29日、7月4日-6日、7月23日-24日、9月2日、9月11日、9月13日、10月15日-16日、11月17日、11月22日、12月29日-31日）

□牧之原他（5月12日、6月9日-12日、10月20日、2011年1月14日）

□台湾（6月14日-19日、8月17日-20日）

□中国青海省（7月19日-8月1日）

■津波

□新居（3月10日、3月18日）

□沼津（3月15日、6月23日）

□松崎（3月17日）

□三陸（3月23日、9月2日、11月29日-30日）

■火山

□富士山（11月17日、12月15日-16日）

□新燃岳（2月5日-8日、2月11日-13日）

□イ ン ド ネ シ ア（9月29日-10月6日、2月5日-15日）

■豪雨（2月5日-6日、6月19日、7月17日、9月9日、9月16日、11月5日、11月9日）

■ジオパーク関連（6月5日、11月25日、9月10日-11日）

■自主防災関連（3月1日、6月30日、11月22日）

高柳記念未来技術創造館活動報告

電子工学研究所　青木　徹

今年度も年間を通じて約5,000名程度の利用者があり、見学者層も一般の見学者に加え、地域の小中高校生、卒業生、共同研究打合せ等で本学へ来学された方、卒業生まで幅広い方々のご見学をいただいています。春の時期は本学学生や地域施設巡り、本学へ御来学の省庁の方々のご見学が、夏の時期は親子連れの姿が、秋の時期は大学祭やテクノフェスタに合わせたご来館や来る受験シーズンに向けた高校生の姿が、また冬の時期は各種研究会や報告会、受験に訪れた学生のご家族など、年間を通じて様々な方がご来館いただいております。平日は本学OBや退職された教員の説明ボランティアが展示説明をしてくださっています。単なる説明員をこえて、年間多数あるテレビ・雑誌等の取材などにも対応いただいています。

常設展示は開館時から続いていた展示を少しずつ入れ替えております。また、大型コレクションであるブラウン管テレビの藤岡コレクションにおいては、2011年7月のアナログ放送終了に対応したデジタル-アナログ変換を導入し、今後もコレクションでの映像をご覧いただけるようにいたしました。また、1月20日の高柳健次郎先生の誕生日にはGoogleのトップページにも高柳先生にちなんだカタカナの「イ」の字をあしらったGoogleロゴが登場し世界中からの問い合わせが相次ぐこともありました。また、高等学校の教科書への掲載の準備も進められています。さらに、本館には交流のためのサロンもあり、国際会議のバンケットをはじめ、研究会や討論会、キャンパスを横断した交流会、共同研究打合せなど年間で約100回ほどの利用がありました。これらを通じて新しい研究・教育の進展が始まっています。

館内1階ラウンジで行われた学生討論会の様子
（工学部4年生が代表を務める国際協力NGO“Q”主催）

クリスタルトロフィー

2011年2月、本館は電気学会第4回電気技術顕彰「でんきの礎（いしずえ）」において顕彰名称「高柳健次郎と全電子式テレビジョン」として顕彰されることに決定し、3月17日顕彰されました。今年（2011年）は、アナログ放送からデジタル放送に切り替わる大きな節目となる年ですが、人々のライフスタイルを変えたテレビジョンに関する初期の研究において大きな業績を残した「高柳健次郎と全電子式テレビジョン」他6件（7顕彰先）が選定されました。この顕彰制度は、「21世紀においても持続可能な社会」を考える上で、20世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を振り返り、その中でも特に価値のあるものを顕彰することによって、その功績をたたえ、その価値を広く世の中に周知し、多くの人々に電気技術のすばらしさ、おもしろさを知ってもらい、今後の電気技術の発展に寄与させることを目的としています。

上の写真のクリスタルトロフィーは今後、本館に顕彰プレートと共に設置展示する予定になっています。

情報学部地域連携推進室の活動報告

情報学部地域連携推進室長　岡田　安功

IT講師補佐ボランティア活動の様子

＜IT教育支援ボランティア活動報告＞

情報学部の学生が情報学教育の特性を活かして、浜松市内の公立小･中学校においてボランティアとして，児童・生徒のコンピュータ学習をサポートするだけでなく、学生自らが「ボランティア活動を通して学び、成長する」ための体験学習を積む活動（コンピュータ技能取得のための教育支援／総合学習の報告書、学級新聞、その他の資料作成の補助：6校で延べ36名の学生が参加）を行いました。

＜IT講師補佐ボランティア活動＞

情報学部の学生が情報学教育の特性を活かして、天竜川・浜名湖地区総合教育センター（平成23年度から「浜松市教育センター」に改称）が主催する教育工学研修会に対し、講師補佐のボランティアとして、幼稚園および小中学校の教諭のコンピュータ学習をサポートするだけでなく、学生自らが「ボランティア活動を通して学び、成長する」ための体験学習（9回講座で12名の学生が参加）を行いました。

＜自己発見教育に向けての公開講座の運営及びモニタリング活動＞

本室が取りまとめ役となり、情報学部及び生涯学習教育研究センター協力のもと、情報学部の保護者及び一般市民向けに公開講座を開講しました。本講座は今年度で3年目を数え、これまでに11の異なる講座を開講しました。本講座は、本学の学生以外の方々へ情報学に関する最先端のトピックを分かりやすく紹介することに加え、本学の学生に対して自己発見教育の機会を与えるという狙いも持っています。すなわち、単に市民向けの公開講座を開講するだけでなく、講座運営、ビデオ撮影によるDVD教材の開発、そしてそのモニタリングを学生有志に担当してもらうことにより、学生自身が大学と地域連携について考え、その結果として自己発見に繋がることを期待しています。今年度の講座は以下のとおりです。

名　称：情報学アラカルト講座2010
開講日：2010年11月13日（土）
時　間：10時30分～ 12時
場　所：静岡大学浜松キャンパス情報学部2号館
受講者：59名

講座1：情報の機能について～操作と管理～（講師：南 利明 教授）
講座2：インターネット、モバイル、クラウド、そしてデジタル化社会へ（講師：水野 忠則 教授）
講座3：市民ネットワークシステムの展開～公共機関、企業、そして大学とのコミュニケーションの未来～（講師：湯浦 克彦 教授）

＜中小企業のHP作成支援活動＞

浜松地域の諸団体（商工会議所､他大学､ITコーディネータ）と連携し、学生に実践的な教育の場を提供するとともに、中小企業への地域貢献を目的に、ホームページの作成支援活動を行いました。本活動は本学の

島田中学校長と教諭に説明する学生

「多角的社会連携による自己発見教育推進事業」等の一環として行われた活動で、全国的にも極めてユニークな取り組みとして高く評価をされました。今年度の作成を支援した企業は以下のとおりです。

■ファッションきものいしばし（染色・呉服・和装小物小売業）
http://www.hamamatsu-cci.or.jp/ouentai/ishibashi/html/ishiashi-top.html

■浜松市土産品協会（土産品協会）
http://www.kazumiworx.com/wadownload11/corraboB/index.html

＜その他の諸活動＞

■これまでの活動とこれからの活動

前述のとおり、本室は、浜松市教育委員会の天竜川・浜名湖地区総合教育センター、浜松市立の各小中学校、浜松商工会議所の支援を得て、これまで学生ボランティアを中心に活動を展開してきました。これは学生に社会参加の機会を与える一方で、学生が大学で学んだことを社会へ還元することにより学んだことに対する理解を深める機会を提供することでもありました。教育効果と社会貢献が一体となった学生を中心とする活動を我々は今後も続けたいと考えていますが、できればもっと多様な展開をしたいと考えています。そのための模索を今年度は行いました。

■浜松まちなかにぎわい協議会との連携

浜松市の中心街を活性化するために「浜松まちなかにぎわい協議会」が2010年4月22日に発足しました。協議会の事務局は浜松市、商工会議所、金融機関、浜松商店各連盟、民間企業から構成され、静岡大学は特別会員として参加し、本室が静大側の窓口として対応しています。

■静岡大学教育学部附属島田中学校との学内連携

今年度は本学教育学部附属島田中学校との学内連携を開始しました。部局をまたがる連携は珍しいことで、大変画期的な活動となりました。具体的には島田中学校のホームページを作成・公開しました。

http://www.shimachu.ed.shizuoka.ac.jp/

■学生ボランティアの活躍と交流の促進

学生たちは様々なボランティア活動をしていますが、どのようなボランティア活動をしているかについて，ボランティアをしている学生たち自身があまり知りません。これは学生ボランティアだけでなく，ボランティア活動を行っているNPOにとっても大きな悩みになっています。本室では学生たちのボランティア活動を活発にする環境作りについて議論してきました。浜松キャンパスだけでなく静岡キャンパスの学生の意見を聴くことにより両キャンパスのボランティア学生が交流を行う環境を整える一歩となりました。

「浜松まちなかにぎわい協議会」主催「はままつ冬フェス in machi」の様子

＜他大学の地域連携活動の視察＞

次年度以降の新たな地域連携活動を模索するために、立命館大学，神戸大学、東京外国語大学、福島大学、群馬大学の地域連携活動について視察をしました。これらの大学は地域の実情と学内の実情に応じて見習うべき地域貢献を行っていて、我々にとって大きな刺激となりました。各大学がそれぞれの大学で行っていることは各大学の環境の中で実現してきたことなので、情報学部において直ちに実行できる訳ではありませんが、見習うための環境作りをすれば、ある程度類似の試みをすることができるのではないかと考えています。お忙しい中を丁寧に対応してくださった各大学にこの場を借りてお礼を申し上げます。また、その後、3月11日（金）の東北地方太平洋沖地震で被災された福島大学と群馬大学が一日も早くこの困難な状況を克服されることを願ってやみません。

イノベーション共同研究センターの活動報告

イノベーション共同研究センター長　木村　雅和

＜光・電子技術イノベーション創出拠点＞

イノベーション共同研究センターでは、2009年文部科学省・経済産業省の産学官連携拠点整備事業として採択された地域中核産学官連携拠点、浜松・東三河『光電子技術イノベーション創出拠点』のコアメンバーとして活動を推進している。光･電子技術イノベーション拠点はこれまでに知的クラスターや産業クラスターで得られた光・電子技術に関する研究成果と元来地域の強みであるモノづくり基盤技術を駆使し、10年後を目途に地域に『輸送機器関連次世代技術』『光エネルギー』『健康・医療』『次世代農業』に関する新産業を持続的に創出する地域イノベーション・エコシステムの確立を目的としている。

産：浜松商工会議所、豊橋商工会議所
学：静岡大学、豊橋技術科学大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学
官：静岡県、浜松市、豊橋市
調整機関：（財）浜松地域テクノポリス推進機構

光・電子技術イノベーション創出拠点の提案機関

そのために、具体的には3つの部会を立ち上げて（1）産業界の意識と構造改革を行い、自立と広域展開に向けた支援エコシステムを確立（支援エコシステム部会）、（2）プロデューサー的な能力を備えたコーディネーターの育成や組織的なコーディネートシステムのためのコーディネーター・エコシステムの確立（コーディネーターエコシステム部会）、（3）長期的人材育成の推進（人材育成教育部会）の3つの事業を展開している。静岡大学は2つの部会で部会長を務め、積極的に事業の推進に参加している。（1）と（2）の事業は直接、産業と関わるものであるが、（3）の人材育成は将来あらゆる分野で活躍する人材をこの地域から多数輩出することを目的とするもので、小中高等学校、場合によっては幼稚園も含めて長期的な視野で人材育成を行うことを検討しており、産学官連携の事業としては極めて異例であり、大きな注目を集めている。以下に人材育成教育部会の活動について詳細に報告する。

＜人材育成教育部会（Top Gun Education Systemの確立）＞

上記のような経緯の下、人材育成教育部会の活動は拠点発足1年後の2010年4月より本格的に始動した。3年後の構想確立と5年後の開校を目標に、昨年度は（1）部会組織の体制確立、（2）先進地域の調査、（3）キーパーソンの取込み、（4）構想の方向性について毎月1回の部会を開催しながら検討を行った。その結果、（1）部会組織としては静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、JSTイノベーションサテライト静岡、静岡県、浜松市、豊橋市、浜松商工会議所、（財）浜松地域テクノポリス推進機構よりボランティアの部会員の参加が得られ、部会組織の体制が確立できた。（2）としては蒲郡市の学校法人海陽学園（H22.10.18）と横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校（H23.1.13）への視察を行った。特に後者における教育には参考となる部分が多かった。今年度も静岡県内で特徴ある教育を行っている学校法人と韓国釜山の高等学校への視察を予定している。（3）としては、浜松市の教育長や小学校の校長の部会員としての参加が得られ、浜松市の学校において本部会で検討している教育システムの実現に大きな前進が見られた。さらに本部会の活動に賛同していただいたノーベル賞受賞者の先生にアドバイザーとして参加していただけることになり、既にいくつかの有用な助言をいただいた。（4）としては、構想の目的、育成すべき人物像、構想の方向性（小中の一貫校を基本として幼稚園の併設や高校との連携も検討）について部会としての案をまとめるに至った。23年度はシンポジウムの開催などを通して、市民、教育関係者の意見も取り入れながら構想を具体的な指針や取組みに落し込んでいく作業を進める予定である。

私たちの夢は、「浜松で教育を受けた子供たちが30年後にノーベル賞を受賞する。そして全国の人々が浜松に注目し、自分の子供を『浜松』で育てたいと思っていただける教育システムを確立すること」である。

＜各機関の連絡先＞

■地域連携協働センター　http://www.crc.shizuoka.ac.jp/
☎　054-238-4902
E-mail　ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp

■生涯学習教育研究センター　http://www.lc.shizuoka.ac.jp/
☎　054-238-4817
E-mail　LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

■キャンパスミュージアム　http://www.shizuoka.ac.jp/c_museum/
☎　054-238-4264
E-mail　kenkyu2@adb.shizuoka.ac.jp

■地域社会文化研究ネットワークセンター　http://www.hss.shizuoka.ac.jp/rnc/
☎　054-238-4900
E-mail　rnc@hss.shizuoka.ac.jp

■防災総合センター　http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/
☎　054-238-4502/4254
E-mail　sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

■高柳記念未来技術創造館　http://www.nvrc.rie.shizuoka.ac.jp/takayanagi/
☎　053-478-1402
E-mail　tmh@ipc.shizuoka.ac.jp

■情報学部地域連携推進室　http://www.inf.shizuoka.ac.jp/about/alliances.html
☎　053-478-1579
E-mail　chiiki-megumi@ml.inf.shizuoka.ac.jp

■イノベーション共同研究センター　http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/
☎　053-478-1704

＜地域連携協働センター運営委員会委員＞

■地域連携協働センター・センター長	柳澤　正
■生涯学習教育研究センター・センター長	阿部　耕也
■地域社会文化研究ネットワークセンター・センター長	野方　宏
■キャンパスミュージアム運営委員会・委員長	和田　秀樹
■防災総合センター・センター長	増田　俊明
■高柳記念未来技術創造館・館長	東郷　敬一郎
■生涯学習教育研究センター・准教授	金子　淳
■教育担当理事	石井　潔
■研究・情報担当理事	碓氷　泰市
■地域連携協働センター・コーディネーター（特任教授）	土居　英二
■地域連携協働センター・コーディネーター（特任教授）	満井　義政
■教育学部教育実践総合センター・センター長	菅野　文彦
■情報学部地域連携推進室・室長	岡田　安功
■創造科学技術大学院・教授	竹之内　裕文
■イノベーション共同研究センター・准教授	清水　一男

発　行　日　2011年5月13日
発　　行　静岡大学地域連携協働センター
編　　集　森本　真弘（研究協力・情報チーム）
連　絡　先　〒422-8529　静岡市駿河区大谷836　静岡大学学術情報部研究協力・情報チーム
☎054-238-4902　E-mail: ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp
ウェブサイト　http://www.crc.shizuoka.ac.jp/